

さあど白とふっこんぎやあ



絵：野口宣友

市山に「若宮さん」と親しまれている「山根神社」というお宮さんがありました。境内には大きな「ガ」の木があり、そこには「さあど」（ふっこんぎ）が住んでおりました。

ある日「さあど」が木の上でまどろんでいると、木の下の方で仲良しの「ふっこんぎやあ」（ひびきがえる）と「さあど（猿）」がなにやらしゃべってました。「ふっこんぎやあどん、なんかおもしろいことねえかいな」とさあどが言うと、ふっこんぎやあは「そげだなあ、久しぶりの出合いの祝いに、もちついてもちくつてもうや」と言いました。

そげしようということので、2人は餅つきの用意を始めました。「わしは高姫のムジナのとっちゃんに杵と臼を借りてくうけん、ふっこんぎやあどんは野鼠のおごりんさんにもち米を借りてき

てくうけん」

仲良く準備を整えると、「よいしょよ！」「あいよー」と息の合った餅つきが始まりました。「のどかなもんだなあ」とさあどが木の上から楽しそうに2人を眺めています。

いよいよ餅をつき終わると、「このまんま餅を食ってしまうのはもったいないやなあ、なんかええ思いつきはねえもんか…」とふっこんぎやあが言うと、さあどは「餅の入った臼を、高いところからまくって、先に駆けつけた者が餅を食うことにしたらどけな？」と言いました。ふっこんぎやあは足の速さではとてもさあどには敵いませんがさあどに「やってみよいや！おもしろい」と言われると「まあ、仕方がねえ」と2人は勝負することになりました。

山根神社の石段のつっぺんから餅を入れた臼を「それ！」と転がすと、臼はあつという間に下の鳥居までまくれ落ちました。さあどは一目散に臼を目がけて駆け下り、一方ふっこんぎやあはゆっくりと石段を下っていきます。すると、さあどの駆けつけた臼は空となっており、石段の途中で臼から落ちた餅をふっこんぎやあが舐めておりました。それを木の上から眺めていたさあどくとは「何事もあわてちゃいかなあ、じっくりと腰を落着けておかない」と笑いました。

おしまい

南部町の企業を紹介します ⑥

株式会社 ミヨシ



みを行っているため、商品の単価が安く、苦慮しております。いずれは商品加工までを行って製品の状態で出荷したいと思っています。」と話してくださいました。

株式会社ミヨシで作られた製品は、スキー場のリフトに使用される減速機のハウジングや上下水道、農業用水、真空プラントのポンプに使われ、県内では倉吉市水道局のポンプや町内の農業集落排水のポンプにも使用されています。あまり身近で見かけることはありませんが、生活になくてはならないものの中に活かされており、生活の基礎の部分を担当しています。

* 製造：材料（鉄、アルミ、銅など）を高い温度で熱して液体にしたあと型に流し込み、冷やして固める金属の加工法

株式会社ミヨシは、昭和48年に旧会見町に開設された粟村製作所米子南工場を、徳島県の企業組合ミヨシキャスティングが引き継ぎ、工場運営のために株式会社を設立し、平成17年に操業を開始しました。

従業員は26人で、町内からは9人が通勤しています。

機械部品の*ちゅうぞう 鋳造を行う会社で、鋳造と加工の2部門に分かれて業務を行っています。メーカーからの注文を受けて部品を作り、最大で4.5t、1つが建物の1階よりも大きな部品を作ることもあります。年間900tの製品を生産しており、これを1,200tにすることを目標とされています。

現在は産業機械の部品の製造の

株式会社 ミヨシ



所在地	南部町円山1
設立	平成17年4月